

心の平和

(原文)

野上 哩誉 (10 歳)

日本<米国イリノイ州在住>
シカゴ双葉会日本人学校補習校

「自分自身を強く持つこと」と「あきらめる勇気」これが私の思う平和への第一歩だ。私は、「みんな仲良くしましょう」という言葉にぎ問を感じる。もちろん、みんなが仲良くすれば沢山の友だちもでき、良いことだ。しかし、おたがいに分かり合えた「仲良く」なら理解できるが、分かり合えないままの「仲良く」は大きなみぞを作るだけだと思う。

私は、7 才のころ、父の仕事でアメリカへ来た。平日は現地校、土曜日は日本人学校へ通っている。4 年生になって二人の特別な先生と出会った。アメリカ人と日本人の先生だが、どちらの先生も決して「みんな仲良くしましょう」とは言わず、少しの変化にも気づいてくれた。私は以前、現地校でいやがらせをされたことがあった。どうしてそんなことをされるのか、相手に分かってもらいたいと思って色々となやんだ。気持ちが通じず、とてもくやしかった。

ある時、それぞれの先生と話をする機会があったので勇気をもって気持ちを打ち明けてみた。日本人の先生は、「自分自身を強く持つこと」と言ってくれた。ただ、アメリカ人の先生が教えてくれた「たまにはあきらめることも大事なのよ」という言葉は意味が分からなかった。なぜなら、私があきらめることが一番嫌いで、何事も最後までやりとげないと気がすまない性格をよく知っていたのでそんなことを言うとは思っていなかったからだ。しかし、「自分が正しいと思ったら、あるところで気持ちをセーブしてみなさい。それがあきらめる勇気ということ。でも、決して、くやしい思いをする必要はない。見ている人はちゃんと見ているから」と付け加えてくれた。それはギブアップの意味ではなかった。また、二人の先生とも「人と分かり合うことはとてもむずかしい。」という同じ意見だった。日本人の先生は「だから、相手とけんかになりそうになったら、まず心を落ち着かせる。」ということも教えてくれた。少しだけすっきりとした気持ちになった。そして、4 年生が終わった。

今、私の思う平和を実現するために、二人の言葉を思い出して気づいたことがある。それは「自分自身を強く持つこと」と「あきらめる勇気」の両方がカギなのではないかということだ。しかし、自分の気持ちを相手に分かってもらうこと以上に、他人の気持ちの深い部分を理解するのはとてもむずかしい。それに、他人に自分の考えを押し付けるのもちがう。だから、私はまず自分から少しずつ変えていこうと思う。まず、自分の心がいつもおだやかでいること。そうすると、周りに流されずに自分を強く

持つことができる。そして、いやな出来事が起こっても自分が正しいと思えば、それ以上の怒りや苦しみを感じる必要はない。それがあきらめる勇気だと思う。

私は素晴らしい先生に出会えて幸運だった。なぜなら、生徒の気持ちを分かろうと一緒に笑ったり泣いたりしてくれる二人の先生のおかげでおだやかな気持ちになれたからだ。心の平和を気づかせてくれた。例えば、人の心は生活やかんきょうによっても大きく変わってしまうと思う。毎日食事ができて、沢山笑いのある家庭ばかりではないかもしれない。人によっては心のかんきょうにちがいがああると思う。だから、多くの人の気持ちによりそい、多くの人の話に耳をかたむけることで、少しずつ分かりあえる部分を大きくする。それが平和な心へとつながるのだと思う。

心の平和。実現するのは簡単ではない。しかし、少し考えを変えてみると、自分の気持ちの持ち方一つで生まれるものだ。心の平和は人々のみにくい争いを無くす始めの一步だと思う。